

## 技術士と大学の連携を考える～産学連携への私見～

2009.2.13

横浜国立大学 産学連携推進本部

共同研究推進センター 村富 洋一

### 1. 産学連携の現状と課題

#### 【現状】

- ・技術、資金の流れが一方向で、大学は企業の相談を「待ちの姿勢」で受けている。
- ・教員と企業の1対1の関係で、個別にコーディネータがアレンジするため、多くの負荷が掛かる。
- ・しかも一過性の連携が多く、継続性が少ない。

#### 【課題】

- ・大学の「知」は、個別的、学術的で分かりにくく翻訳が必要で、分かり易い情報発信の場が必要である。
- ・地域企業との産学連携を教員と企業のN対Nの関係にしてプロジェクト管理のもとで展開すべきである。
- ・従来の個別の共同研究に加え、**新規イノベーション創出**への発展も必要である。

### 2. 産学連携のあるべき姿（私見）

- ・自前主義を排除し広く連携を推進して、地域企業の側に立った課題解決を行い、永続的で相互に信頼感を醸成する一本釣り方式から地引網方式へ（1対1からN対Nへ）の転換が必要である。
- ・広い連携の中で、コンソーシアムを形成し、個別の詳細な技術紹介や技術相談だけではなく、企業を巻き込んだ提案型の新規**イノベーション創出**を目指すべきである。このためには、専門分野毎に企業OB、技術士などでリエゾン集団を配置し、プロジェクト管理を導入する必要がある。
- ・最終的には、大学と企業間でヒト・モノ・カネおよび情報が双方向で永続的に循環する「**産学公共生**」を目指したい。

### 3. 現在行っている施策

- ・「かながわ産学公連携推進協議会」の設立  
地域の10大学、5自治体支援機関、3企業団体等と連携し、企業側に立った最良の解決策を提示することを目的とした活動の紹介
- ・特定分野に対するコンソーシアム設立  
個別技術を分かりやすく企業にアピールし、課題をトータルに解決する場の提供（異業種交流）として、よこはま高度実装技術コンソーシアム（YJC）を紹介

### 4. 技術士との連携について

- ・多くのステークホルダ間で技術を纏め上げるリエゾンコーディネータの重要性がますます高まる。
- ・技術士の職務としてのコンサルティングに加え、より高い視点に立って産学連携の輪に参入し、地域の**イノベーション創出**への提言を頂きたい。
- ・このためには、プロジェクトに関連する専門技術に加え、プロジェクトマネジメント、技術経営（MOT）に関する知識と経験が不可欠である。この点で技術士、特に総合技術監理の資格を持つ技術士の積極的なご参画を期待したい。
- ・大学教員（Professor）と技術士（Professional Engineer）は、学会や例会などの仲間内の活動だけでなく社会に向けてより多くの情報発信をすべきである。共に真の「**Profess**」を行おうではありませんか！

以上